

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○化学物質—農薬

ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、母乳からグリホサートが検出されたとの報道を受け、見解を公表

公表日：2015年6月30日 情報源：ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2015/16/the_national_breastfeeding_committee_and_the_bfr_recommend_that_mothers_continue_to_breastfeed-194547.html

ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)は6月30日、母乳からグリホサートが検出されたとの報道を受け、乳児が摂取した場合に健康影響を受けると考えられるレベルを十分下回っているとの見解を公表した(BfR 情報提供 No. 16/2015)。

連立与党の「90年連合/緑の党」(訳注:緑の党)は6月25日、ある検査機関が行った分析で、16の母乳検体から農薬有効成分グリホサートが検出されたとの報告書を提出した。この報告書はこの結果を「とても懸念される」とした。

BfR 及び国立母乳栄養委員会(NSK)は、検出された値(最大で0.43ng/mL)は、健康上安全であると考えている。

報道された濃度に基づき、BfR は、健康に影響を及ぼさないとされる値を上回るかどうかを計算した。新生児の母乳の最大摂取量は、約150mL/kg 体重/日。最大値では、母乳のみを与えられている乳児におけるグリホサート摂取量は0.000065mg/kg 体重/日となる。食品の残留グリホサートについては、EU が算出した1日摂取許容量(ADI)は0.3mg/kg 体重である。これは、健康影響があるとは考えられない値である。すなわち、新生児におけるグリホサート摂取量は、安全な摂取量の1/4,000よりも低い。

加えて、検査に用いられた手法に関して、大きな疑問がある。

この研究ではエライザ法(ELISA)が用いられた。しかし、BfR の理解では、ELISA は水の検体のグリホサートの検出に用いられる手法であり、母乳検体の検査には適さない。脂質を含む試料について、最も精度の高い方法(液体クロマトグラフ法など)では、検出限界値は10ng/mL である。母乳から検出されたレベルは、この値を大きく下回っていることから、この研究で用いられた試験方法に関する詳細な情報が分からなければ、評価はできない。

メディア報道では、母乳から検出されたグリホサートの濃度は、飲用水の残留農薬の基準値である0.1ng/mL を超えていたと強調されている。

ベビーフード中の残留基準値は、非加熱喫食用調理済み(RTE)製品で0.01mg/kg(10ng/g)である。すなわち、この基準値は、メディアが引用している飲用水の基準値よりも、100倍高い。

NSK 及び BfR は、不安を抱える母親らからの電話相談に対して、授乳は乳児にとって最良の栄養であることに変わりはないとして市民の不安を取り除くべく助言を行っている。母親らに対して、授乳を中止したりせず、これまでどおり続けるよう呼びかけている。

○関連情報(海外)

「乳及び尿中のグリホサート量に関する評価」(2015年6月26日付 BfR 情報提供 No. 019/2015)

<http://www.bfr.bund.de/cm/349/evaluation-of-glyphosate-contents-in-breast-milk-and-urine.pdf>

ワシントン州立大学の研究者らが米国の母乳にはグリホサートが含まれないことを報告(2015年7月23日付)

http://www.eurekalert.org/pub_releases/2015-07/wsu-wrf072315.php

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>) をご覧下さい